

**HUMANE  
INTERNATIONAL  
NETWORK  
(HINT)**

—————HINT News Letter No. 41 目次—————

- page1: HINT 講演会のご案内「世界に広がる感染症の現状」  
Page2-4: ベトナム事業・ホアン司教と SCSS  
Page5-6: アフリカ事業・現地からの報告  
Page7: HINT 奨学生卒業後の状況  
Page8-10: 2014年 HINT アフリカ講演会 講演録(続)  
Page11: 会費納入者・寄付者及び物品寄贈者名簿、  
会費振込のお願い、ご支援・ご協力をお願い  
Page12: 定期総会のお知らせ、事務局からのお知らせ

**HINT 講演会のご案内  
「世界に広がる感染症の現状」**



**講師：狩野繁之**

(国立国際医療研究センター 研究所 熱帯医学・マラリア研究部 部長)

**日時：6月27日(土) 15時～17時 会費：無料**

**場所：新宿区落合第一地域センター第2集会室(最寄駅・地図は12頁参照)**

アフリカを中心に広がったエボラウイルスの猛威。収束させるための方策とは何か。  
さまざまな感染症の専門家である狩野先生からその対策についてお話をうかがいます。

【講演内容】 私たちが住む地球上には、気候・風土・文化・社会環境に特有なエコシステムが存在し、さまざまな地域特異的な病原体がヒトや動物との間を行ったり来たりして、ヒトに大きな疾病負荷を与えている。寄生虫のように比較的ヒトに適応したものから、エボラウイルスのように、極めて有害で、感染すると死亡率の高い病原体がある。ヒトによる地域の開発、それに伴う環境の変化、食材やヒトの移動による疾病の拡散など、感染症の疫学は多元的な視角で捉えなければならない。デング熱やマラリアの日本国内での再流行も心配な今日、世界規模での感染症対策を考えなければならない。

【プロフィール】 狩野繁之 (かのう しげゆき)

群馬大学医学部卒、同大学院博士課程(寄生虫学専攻)修了。同大学寄生虫学教室助教授を経て、1998年より現職(国立国際医療研究センター 研究所 熱帯医学・マラリア研究部 部長)。筑波大学基礎医学系教授、ラオス国立パスツール研究所寄生虫研究室長、フィリピン大学公衆衛生学校客員教授、日本熱帯医学会理事長、日本カトリック医師会副会長、カトリック社会問題研究所幹事、などを併任。趣味：書道、空手、マラソン。

## ベトナム事業・ホアン司教と SCSS(慈善・社会奉仕協会)



昨年(2014年8月18日)に帰天されたホアン司教(写真)は、ベトナムの人々だけでなく、世界のNGOや私たちHINTにとって非常に大きな存在でした。その業績を、共に働いたポール神父からお伝えいただきます(下線の部分がHINTが関わったプロジェクトです)。

### 1. SCSS(慈善・社会奉仕協会)の設立

SCSS(慈善・社会奉仕協会)は、ファンティエット教区に所属するポール・グエン・トアン・ホアン(Pau Nguyen Thanh Hoan)司教によって創立された。ホアン司教は、1932年11月11日、ヴィン教区のフィックロック小教区で出生、1954年(ディエンビエンフーの戦いのあった年)の事件のときに南部に転居し学業に励み、1965年にサイゴン(現ホーチミン)で司祭に叙階された。生来、慈善心に富み、社会事業に熱心であった同司教は、司祭に叙階された後、クアンチ省所在のパリ外国宣教会から現地の責任者に任じられ、ローマ・カトリック教会フエ大司教管区の管理にあたった。

ホアン司教は1年後に、フエ大司教管区の文化・社会計画の実行に乗り出され、17度線(南北軍事境界線)付近の農村紛争地帯の貧しい子供たちのための中等教育の学校を設立された。それはアレクサンドル・ド・ロールと命名された。

1968年以後、内戦が熾烈になるにつれて、特に戦場になった地域の数多くの住民が、痛ましい悲劇に巻き込まれるようになった。ホアン司教は、一家離散の憂き目に遭った犠牲者と孤児たちを分け隔てなく受け入れることとし、その目的で建てた「白鳩の家」という名の居心地のよい家に彼らを迎え入れた。

その時以来、宗教者としてのホアン司教の生活は人間としての理想の在り方に、また恵まれない人々の生活に、より密接に関わるようになった。1972年には、「白鳩の家」は300人以上

の戦争難民を収容していた。この年に「レッド・ファイアの夏」と称される軍事作戦による激的な戦闘がクアンチ省全州に展開され、ホアン司教は「白鳩の家」家族とアレクサンドル・ド・ロール学校の数百人の生徒たちを、その他の避難民たちとともにビン トウイ(現在はビン トアン州)に移転させなければならなくなった。

1975年の歴史的な終戦の後、ホアン司教の慈善活動はすべて州政府に引き渡されたが、同司教は、同国人たちがあまりにも多大な困窮に直面していることを見過ごすことはできなかった。そこで、ホアン司教は、移転前の可愛らしい名前に因んで白鳩教区を設立した。これは、現在、ファンティエット教区のタンリン小教区と改称されている。

この困難な期間中、慈善心に富む牧者として多忙を極めていたが、困窮者への愛から、ホアン司教は社会の利益と地方開発計画を進めた。たとえば、農業に関する農民の知識の向上に努め、各種の土壌に適した作物とその種子の選択や、労力を節約する稲の収穫機械の設計を教えるなど、いろいろなアイデアを実行した。

1993年にドイツのチャリティ・グループの支援を得て、司教は100ヘクタール以上の広さの不毛地を、その地区に住む300以上の貧しい家庭のために、生産力のある土地に変える灌漑用の大きなダムを建設した。



HINTによって寄贈された井戸の一つ

それに加えて、ホアン司教は電力供給網、村落を結ぶ道路、灌漑システムなど数多くの開発

計画を実施し、特に少数民族であるラグライ族について、ハンセン病治療と家計充実のための支援に尽くした。ハンセン病の蔓延に悩みながら耕作転換のための移住・放浪で過ごしてきた少数民族について、ホアン司教は、彼らを村落に定住させ、井戸を掘り、牛を飼い、耕作に従事するよう指導した。その結果、司教の慈善活動と社会奉仕の事業によって、300人以上が教会に復帰した。



HINT 奨学金で学んだ漢方医による漢方薬作り

慈善活動と社会奉仕事業への具体的な必要性和、中央集権経済の強烈な現実を目の当たりにして、ホアン司教は、人類をこよなく愛される主とともに「貧しい人々に福音を宣べ伝える」（ルカ 4・18）というモットーに従い、福音に身を捧げ、困窮した人々に奉仕する理想に燃えて、ホアン司教に協力する同じ善意を持つ人々を募り、選び出すことができるよう絶えず神に祈った。

ホアン司教は、10人の小グループ（女性8人と男性2人）を選抜し、彼らをキリストの精神と社会的責任を自覚するよう訓練し、SCSS（慈善・社会奉仕協会）を設立した。その後、同協会員は漸次増加して約300人に達している。それぞれが若く積極的な活動家である。

2004年12月10日、ファンティエット教区のヒュンヴァンニヒ名誉司教によって、協会はその憲章と共に認可され、正式に前記のように命名された。協会は無限の活力源としての聖体の秘跡を通じ、キリストおよび聖母マアリの御心と愛によって生まれ、社会奉仕と慈善活動の模範となり完全なモデルとなっている。すべてのメンバーは、教皇やその他の人々の神学や福音書、カトリック教会のカテキズムを学び深く体

得している人々である。彼らは聖書の三つの教えと共通の宗教生活に従い、教会と同胞愛への熱烈な敬意を表明している。従って、協会は三位一体の愛の泉である聖霊と、とくにイエスキリストの恩寵に導かれて、ホアン司教のモットーである「貧しい人々のための福音」（ルカ 4・18）に従って貧窮者に奉仕する霊性の構築に努めている。

協会のすべてのブラザーとシスターは、農業、衣料生産、土木建築の仕事をはじめソーシャル・ワーカー、教師、医師、看護師、東洋医学の薬草採取、西洋の薬剤師、獣医、建築業など、各自の職業についての訓練を重ね、それを通じて福音の教えを広める使命に尽くすことに努めている。



HINT によって寄贈された無料診療所

## 2. 協会が実行、展開してきたプロジェクトと活動

- ・協会所有の豚舎の設立、養豚事業と、地域の貧しい人々のための「養豚ローン」（豚を貸し出す）プログラム。
- ・貧しい人々のための家屋建設。
- ・協会診療所で無料で病人を治療するための薬草の栽培と収穫。
- ・無料の診断、調剤、鍼治療。
- ・遠隔地出身の学生・生徒のための寮の建設と生活支援。
- ・遠隔地の住民、特に過疎の山岳地住民のための、無料の真水供与。
- ・貧しい学生への制服支給、貧困家庭および自然災害犠牲者への衣服の供与。
- ・ハンセン病村落の患者の介護、治療、食糧援助。その他、諸共同体村落での同種事業の実行。



HINT 無料診療所での鍼灸師による治療

### 3. 現在実施中の活動とプロジェクト、近く予定されている活動およびプロジェクト

- ・「兄弟の共同体」のための施設の建設（チャペル、宿舎、その他の工事を含む）。
- ・遠隔地域の伝道拠点の増強；各拠点に宿舎、鍼治療と調剤の部屋、給水設備を施工する。
- ・孤児、置き去りにされた子供、特別な事情にある子供たちの養育のための孤児院の開設。
- ・困窮者のため、各地域の事情に応じた「育牛ローン」（肉牛の貸し出し）の創設と高度の経済収益事業の導入。
- ・農村地域の若者たちによる専門技術習得、自治体奉仕への支援のためキャリア訓練センターの開設。

協会はこれまでの宣教活動で多くの困難に遭遇してきたが、神の大なる祝福と恩寵を受けて、創設者であるホアン司教の下でその教えに従い、各メンバーは常に自らの同朋と貧しい人々のために尽くしている。ホアン司教は2014年8月18日にこの世を去って天使の仲間に加わられたが、その姿と私たちに託された仕事は、協会の私たちがその霊性に与り、後を引き継いでいく刺激ともなり、動機ともなっている。

今日の当協会の発展は、また、犠牲、助け合い、寄付、特に協会の近くか遠方であるかに関わらず、気遣ってくださるすべての篤志家の祈りの証しである。

ホアン司教は、確かに後に残された名誉ある

仕事を継いでいくよう神に祈られていると同時に、この素晴らしい仕事を開始された神は、いつもわが協会と後援者、篤志家の全員を祝福されていると、私たちは信じている。

聖母マリアとヤコブの子ヨセフがすべての後援者・篤志家とわが協会メンバーを見守ってくださいますように。

私たち全員が聖霊に導かれて、人類の悲惨を慰め、救済するようキリストから私たちに委ねられた使命の達成に邁進することが出来ますように。

2015年4月23日、ファンティエットにて  
ポール・ホ・フィ・チン神父 (SCSS)

(翻訳 理事・高橋章)



HINT によって寄贈された乳牛



HINT によって寄贈された校舎

## アフリカ事業 現地からの報告

21年目を迎えたコンゴ民主共和国(以下、コンゴ)での HINT アフリカ・プロジェクトについて、現地のスタッフや奨学生、父兄の代表が話し合い、現在に至るまでのプロジェクトの成果を総括しました。現地からの報告書を掲載いたします。

日時：2015年1月16日-17日 午前10時

場所：コンゴ・南キブ州ブカブ

出席者：

1. Mr. Celestin Mahango LUBEMBELA、父兄代表
2. Dr. IDUMBO MUSAGHI Allen、学生代表
3. Mr. Placide KITANGILWA、事務所スタッフ
4. Mr. K. MUSAGHI Thaddee、プロジェクト・コーディネーター
5. Mr. NGANDU MUSAGHI Abelys、ソーシャル・アシスタント
6. Mr. OLEMBO OTCHA Ambroise、記録係、事務所スタッフ
7. Ms. WATAKISI WANGHA Myriam、コーディネーター・アシスタント

### 1. はじめに

1995年以来、コンゴは、全体として国を激震させ、特に国内東部で荒れ狂った相次ぐ戦争の政治的・経済的・社会的結果として、不安定な情勢に直面している。これらの戦争は、コンゴの土地とその地下にある金、ダイヤモンド、銅、コバルト、石油、ウラニウム、コルタン、木材などの資源に他の諸国が食指を動かしたために起きたものである。

このために、国民は深刻な貧困に陥れられ、貧しい生活と失業の一般化、多数の戦争孤児と悪疫(HIV-AIDS)の発生、隣国との間での頻繁な人口移動(転出と転入)、最貧家庭の子供たちの教育の放置などに苦しむことになった。だからこそ HINT は、やむにやまれぬ思いで、1995年以来、こうした惨状にさらされて疲弊した同国民を支援するために、教育分野を支援することとした。

この援助プログラムは、「アフリカの学生支援プログラム」(略称 PAWTA)を通じ、困窮民人道支援行動(AHD)との間で結んだ協定の期間中に10人の学生(大学レベル)に対する支援からスタートした。というのも、HINT はコンゴで活動する認可を得ていなかったか

らである。5年後の2000年に、これは HINT アフリカ・プロジェクトになったが、AFDL(コンゴ・ザイル解放民主勢力連合)とRCD(コンゴ民主連合)との戦争、ルワンダ、ブルンジ、ウガンダの侵入(ムラブシ戦争、ローレント・シクンダ戦争)などのため、最初の奨学生たち(the winners)は卒業しても就職できなかった。このような情勢の中で、HINT は当プログラムを初等・中等教育レベルまでに拡大させた。

今日、当プログラムは貧しい学生、特にコンゴ南キブ州ブカブの学生・生徒たちへの支援を20年にわたって続けている。

### 2. 20年間の影響と成果

1995年11月以来の20年間の歩みの中で、HINT の奨学金援助プロジェクトは有益な成果を挙げており、そのことは初等、中等及び高等教育の三つの教育レベルでいえるように思われる。戦争のために休校や休学を余儀なくされた若干の年があるにもかかわらず、生徒への支援実績は、そのような年に記録されているところでも、90%から94.5%の間で推移している。

プロジェクトの支援については、既に大学の学習を終えた各学生に関する詳細を記載した(7頁に詳細)。第一サイクルまたは第二サイクルを完了した、合計で37名の学生のうち、23名は国または民間の施設で働き、13名が無職、そして1名が未就職のままにすでに死亡している。

しかしながら、彼らに授与された(大学)資格認定書の photocopy を送付することは困難である。というのも、コンゴの学位修得者に卒業の日はないからである。首尾良く修了した者(the winners)の名前は管轄官庁に提出しなければならないが、その官庁は登録手続きを終えて数ヶ月後、あるいは数年後にすらなることもあるが、各学校に通知する。このような理由で、学生のうち誰一人として、オリジナルの学位証を受け取っている者はいない。彼らの証明書(certificates)の文言(testimonies)だけが、結果が与えられたことを確認するものである。

毎年学年末に、前年度中の学業を裏付けるすべての結果のコピーが本部に送付されている。

学用品の配布報告書と彼らの活動の写真とが、必ずこうした割当書に添付されている。

各四半期末の財務報告書の場合も同様で、それらは私たちの使える資金の用途を証明するものであり、ときには詳細なレポートが作成され、プロジェクトによって要求されるとき、関係者に送付された。この援助によって学校の支給品を受け取ることができるので、援助は学生にとって必須のものである。乏しい中、予算から授業料と学用品代が学生に代わって支払われている。

生徒、学校、現地職員は寄付、もしくは支援金として受け取ったもの全部に感謝の書状を送付した。管理職員は結婚、病気、葬儀などの特別事情の際に支援された。

こうした数年間の活動期間中に、私たちはHINT関係者によって3回の監査、確認、評価のための訪問を受けた。1997年7月26日に櫻井洋氏（HINT元役員）が、2004年5月21日に辻氏（FAO）が、最後に2005年4月21日にフォトジャーナリストの桃井和馬氏（HINT会員）が訪問した。



現地スタッフの結婚式

### 3. このプロジェクト継続が必要である理由

上述のように、コンゴの国民は相次ぐ戦争のために長い年月に及ぶ社会の混乱を経験した。現在はこうした戦争自体は収束に向かっているが、そのために生じた問題は今も未解決のままである。貧困、孤児、失業、教育の不在、所得のない人々、識字者であっても生活可能な職がないために、ブルンジ、ルワンダ、ウガンダなどへ脱出する人々など、なお大きな傷痕を残している。

プロジェクト継続が必要なもう一つの理由は、子供たちの文盲をなくして、彼らが軍に徴用され、就職を阻害されることを阻止するためである。

さらに、当プログラムの恩恵に浴し始めた初等教育、中等教育の学齢の多くの子供たちが、支援が突然に打ち切られると学業を中断せざるを得なくなるため、私たちは、低学年の子供たちが社会に出ていける水準まで学べるように、5年以上の支援を求めるものである。

さらに考えなくてはならないのは、学部レベルを修了した、つまり、大学を卒業して、少なくとも当事務所の維持のための賃借料程度は支払って、このプロジェクトを助ける試みに加わるべき人々のことである。彼らの賃金レベルは、月当たり30ドルから100ドル程度ときわめて低く、その上、彼らは家族を扶養しなければならないので、プロジェクトが必要とする資金のために彼らが拠出できる余力はごく僅かではない。

私たちが賃借料を支払うためにやりくり算段していること、HINTには十分な資力がないことなどから、一部の卒業した奨学学生たちは、ブカブでの総会を開催する前に、そうした事務所費用を支援することを決定している。連絡によれば、彼らは、2015年1月末までに彼ら自身からの寄付を送金することを約束している。彼らは、すべての卒業生に依頼すべく、寄付の要請と支援の催促を緊急に来週発送することに決めている。当プロジェクトへの参加を検討するための卒業生たちとの現地総会は2015年7月25日開催の予定である。

所得を生む持続可能な活動、つまり診療所、パイロット・スクール、学校基本施設の復旧、公共機関事務所、レストラン、小規模農場などを、一部の卒業生（the winners）をエージェントとして活用するために創設し、自立プロジェクトとしなければならない。つまり、自主財源を持つことによって、公的資金とその他HINT寄付者（資金供与者）の負担を軽減しなければならない。

従って、HINTの関係者および資金提供者たちのこれまでのご支援に心から感謝の意を表するとともに、上記の理由により、私たちはもう一度、当プロジェクトの継続支援をお願いするものである。

会議は1月17日、16時30分に閉会した。

記録者：Mr. Ambrose OLEMBO Otcha  
会議議長：Mr. MUSAGHI K. Thaddeus

（翻訳 理事・高橋章）

## HINT 奨学生卒業後の状況

HINT のコンゴ奨学生の卒業後の進路の調査をいたしました。番号、氏名、性別、専攻、卒業年、仕事(現在の状況)の順に掲載いたします。

- |   |  |
|---|--|
| <p>01 ABWE PELO 男 L2 経済学 2008年<br/>ETAT/INPP (高等師範学校)</p> <p>02 ALENGA SADIKI 男 L2 地域開発学<br/>講師 ETAT/ESURS (政府系学校)</p> <p>03 A' OCI Gérard 男 L2 地域開発学<br/>2001年 死亡</p> <p>04 Arthur NYATEMU ZENDA 男<br/>L2 地域開発学 2001年 DG ISDR 職員<br/>ETAT/ESURS (政府系学校)</p> <p>05 BIGANO KISUBI SUZANNE 女<br/>G3 高等看護学校 1999年<br/>教会母の会リーダー</p> <p>06 BURUME MAPENDO Jos 女<br/>G3 公衆衛生学 2009年 秘書<br/>EETAT/TRAN (政府系機関)</p> <p>07 BYAMWITENGA M. A. 男 L2 医学<br/>病院医師</p> <p>08 DUNIA KYATOTA 男 L2 関係学 無職</p> <p>09 ETUMBA Edith 女 G3 公衆衛生学<br/>2008年 心理カウンセラー CONAFED</p> <p>10 ESASA WALENGAMIN 男 G3 LING.<br/>AFRICAIN. 2002年 教授 ETAT/EPSP</p> <p>11 IDUMBO MUSAGHI Allen 男 L2 医学<br/>2014年 病院研修医</p> <p>12 ESUBE ECA 男 L2 平和開発学<br/>2014年 無職</p> <p>13 ILUTELO MBOBOCI G. 男<br/>G3 地域開発学 1999年 CHARGE MISS<br/>ETAT/GOUV (政府系機関)</p> <p>14 KABE KANKISINGI J. 男 L2 法学<br/>2003年 弁護士 ETAT/JUST</p> <p>15 KANKISINGI M. Gustave 男 L2 法学<br/>2006年 裁判官 ETAT/JUST</p> <p>16 KANKISINGI MUSAGHI JP 男 L2 財政学<br/>2009年 秘書 ETAT/CULT</p> <p>17 KIKA NZIGIRE 男 G3 経営学 2014年<br/>無職 家事手伝い</p> <p>18 KIKUNI BESULANI Georges 男 L2 医学<br/>2011年 医師 ASSIST/UEA</p> <p>19 KYALONDAWA SOMBOLA 男 無職</p> <p>20 LOTOKO KASAMWA 女 G3 研究所<br/>2001年 家事手伝い</p> <p>21 LUBUNGA ALIMASI 男 L2 経済学<br/>2012年 公安官 HOPE AF. UNIVER</p> | <p>22 LUNANGA ESASA 男 G3 地域開発学<br/>2011年 無職</p> <p>23 LUTHALA MUSEME J.B. 男 L2 関係学<br/>2008年 無職</p> <p>24 MBUMBA KALONGO Fify 女 L2 経済学<br/>2004年 地域再生 ETAT/FPI (政府系機<br/>関)</p> <p>25 M' KUNGU M' SENDELW 男 L2 経済学<br/>2012年 無職</p> <p>26 MUGANZA KULYA Gaby 女<br/>G3 高等看護学校 1999年<br/>教授 ETAT/ENS</p> <p>27 MUSAGHI KITANGIL TH. 女 L2 経済学<br/>2010年 無職</p> <p>28 MUSIGWA KANGELA M. 男 L2 行政学<br/>2003年 PARSEC ETAT/C. ECFI (政府系<br/>機関)</p> <p>29 NIYOYANKUNZE Jérôme 男<br/>経済学大学院 講師 BUJA/UEA</p> <p>30 NGANDU MUSAGHI Abe 男 L2 平和開発<br/>学 2010年 講師 ETAT/ESURS</p> <p>31 OLEMBO FEZA Marie Goretti 女 L2<br/>経済学 2011年 SUIVI FINANC ONG/IRC<br/>(NGO 職員)</p> <p>32 OLEMBO YOHALI DIAN 女 農業経済学<br/>2011年 無職 MENAGERE</p> <p>33 SHABANI KEIKA 男 L2 SC 行政学<br/>2014年 管理官 ETAT/SAESCAM (政府系<br/>機関)</p> <p>34 RAJABU BALAGIZI 男 無職</p> <p>35 RAMAZANI KATOTOKA 男<br/>G3 商業専門学校 無職</p> <p>36 WATAKISI MUSAGHI David 男<br/>L2 経営学 2013年 無職</p> <p>37 WIMBA MWESHA Hubert 男 農業経済学<br/>2011年 農業専門員 FERME St Laurent</p> |
|---|--|



学用品をもらって笑顔の現在の奨学生たち

## 2014年HINTアフリカ講演会 講演録（続）

カトリック松原教会で行われた、HINT総会に続くアフリカ講演会（2014年6月21日）では、コンゴ民主共和国（以下コンゴ）出身のカトリック松原教会・淳心会司祭オノレ・カブンディ神父に記念講演を行っていただきました。前号に引き続き、講演内容の後半部分を掲載いたします。



母国の現実を語りかけるオノレ神父

### 「コンゴの危機と教育問題、 希望をもって未来に向かう子供たち」 オノレ・カブンディ

#### 学校の建設と復旧

コンゴの憲法は無償での初等教育を謳っていますが、北部キブでは読み書きのできない人、つまり非識字率は人口の50%以上におよび、女性だけをみればその割合は75%以上に上ります。10年以上にわたる戦争で、通学の安全性も脅かされ、繰り返される学校の略奪で、残念ながら学校教育を受けられない就学年齢の児童の数は増加の一途を辿っています。コンゴの地方（農村部）では長年に及ぶ内戦で、社会基盤いわゆるインフラの被害が甚大です。

学校や教師の家などは、敵味方を問わず民兵の避難所に使われました。教室は組織的に略奪、襲撃され、15年以上に及ぶ国の破産状態が続いたことで、給料も支払われない教師たちは次々に職場を離れていきました。このような悲惨な状況にあって、地方では未だに学校のない村がかなりの数に上り、たとえあったとしても、インフラは極度に貧しい状態です。こういう状況下、学校に通って勉強をすることができない子供たちの数は急増しており、民兵や他の悪意を持った人々の標的になってしまうことは想像に難くありません。

被害が甚大な地域の子供たちは、夢と希望を持って勉強できる日を待っています。皆さまがもしこの状況に心を動かされたなら、コンゴのさまざまな地域の学校建設計画に参加することで、子供たちの希望に応えることができます。東部コンゴだけとは限りません。人々は家を求めて他の都市や村に移り、子供たちを学校に通わせます。今日の内戦勃発以来、実に400万人以上の人々が強制退去させられ、多くの人々が、生き残るために都市から遠く離れた場所に移住することを余儀なくさせられました。

あなたの援助があれば学校教育を受けることが可能になる子供たちの例をいくつかお話しさせていただきます。

#### 支援による学校教育の必要性

##### 1. 少年兵

反体制軍は少年兵の利用で悪名高い存在です。子供たちを拉致するために主に学校が標的になり、拉致された子供たちは奴隷のような扱いを受けています。貴重な幼少期を台無しにされ、長期にわたって少年兵たちは自分たちの基本的権利を侵され続けます。多くの命が失われ、また耐え難い状況を生き残ってきた子供たちは、肉体的にも精神的にも大きな傷を抱えています。

コンゴの子供たちは10年以上にわたる戦争の中で成長期を過ごしてきました。現在、大半の子供たちは、少なくとも公的には、復員軍人です。しかしながらこの子供たちは、いつまた補充兵として駆り出されるかもしれません。彼らは補充兵を求めている民兵の格好の餌食です。このような子供たちはほとんどの場合、基本的な（初歩的な）教育さえ受けていません。無為に、ぶらぶらと過ごし、仕事のあてもありません。特に、家族と離別して路上で生活している子供たちにとっては、この危険性はさらに増します。

しかし、皆さまのスポンサーシップで、彼らは読み書きができるようになり、しっかりとした訓練を学校で受けることができます。あなたの助けで彼らの精神面、情緒面の観察支援が継続可能になり、家族の元に復帰させることができます。

##### 2. ストリート・チルドレンと孤児

暴力と苦しみのみが存在する環境の中で、この世にだれ一人頼る人もなく、一人ぼっち



で放り出された約800人のカナンガの子供たちは、生き残るために街の中心地の一つである中央市場の近辺にたむろしています。この子供たちには何もありません。家族もなければ、住むところもなく、着替えの服もありません。

彼らは就寝中に襲われたり、身ぐるみはがされたりする覚悟で、古い壊れた車や市場の露店に潜り込んで床の上や歩道で寝るしかありません。彼らに残されているのは彼らの魂だけです。国を襲う経済的、社会的打撃の最初の犠牲者が子供たちで、彼らが自分で路上生活を選んだのではありません。

飢餓によって、多くは食べ物を探して父母の元を離れ、そのまま家に戻りませんでした。

拒絶によって、多くの子供たちは親からいわれもなく不幸や悪の根源と責められ、この苦しみのいけにえとされ、まるで悪魔のような不吉なものとして路上に放り出されて見捨てられます。

生まれながらに才能がある子供たちは、どのようにしてストリートで見捨てられているのでしょうか。

家族に拒絶された子供たちは虐待され、物乞いや売春までもせざるを得ず、この状況から逃げ出す術もなく、路上が彼らの唯一の生存場所となるのです。衛生状態は最悪で暴力に満ち、ストリート・チルドレンの路上生活は過酷です。ストリート・チルドレンは売り子がない早朝や夕方の市場をうろついて、食べ物を漁ります。暴力は生活の一部です。逆説的で奇妙なことですが、年少者は年長者に脅されると同時に守られてもいます。

弱者は強者に痛めつけられ、強奪されて彼らの傘下に組み込まれ、今度は彼らの庇護を受ける見返りに他の人のものを強奪するのです。カナンガ市には教会が支援する3つのセンターがあり、子供たちを受け入れて家族や社会復帰のために全力を尽くしています。センターで子供たちは衛生教育と医療ケアを受けます。通常の学校教育に参加できるようになるまで子供たちの面倒を見ます。

皆さまのサポートで、このような子供たちの悲惨な状況を改善することができます。通常の学校に戻る子もいれば、職業訓練を受ける子もいるでしょう。また家族と再会できる子供たちもいるかもしれません。皆さまのサポートのおかげでこのような子供たちも、子

供としての本来の生活を取り戻す機会を得ることができるでしょう。

### 3. あなたはどのような援助ができるのか

これらのセンターで行われているチャイルド・スポンサーシップは、共同スポンサーシップです。彼らの援助をしたいと思えば、あなたはこのセンターにいるすべてのストリート・チルドレンの代父、代母になります。そして希望すれば定期的に子供たちからニュースが届きます。センターからは、あなたに子供たちの写真や絵なども送られてきます。誰からも拒絶され、極貧の状態で社会の片隅に追いやられ、自分たちの生活や未来をも失った子供たちは皆さんを必要としています。海を越える皆さんからのかけがのない贈り物で、彼らの運命に小さな光を当てることができます。何を食べ、どのように装い、いかにして生き延び、教育を受けるかという基本的な大切なギフトです。

皆さまはストリート・チルドレンに基本的な生活必需品を与えながら、地域の発展にも貢献することができます。詳しくご説明しますと、皆さまの贈り物は地元の産物であり、そのギフトは、センターの人たちが現地の製品をあなたの代わりに購入して、あなたの名前で子供たちにプレゼントします。地元産の製品を贈り物とることにより、あなたの志は2倍の効果を発揮します。つまり、ストリート・チルドレンがそれなりのまともな食事と生活を得、同時に地元の経済も活性化できるからです。

子供たちを資金面で支援するということは、コンゴの不幸な境遇にいる子供たちに対する慈しみと連携を形で示す行為です。チャイルド・スポンサーシップは子供の未来を築くための学校教育、社会復帰、訓練であり、一言でいえば、命を学ぶことを通して子供を支援する共同作業です。

### 皆さまは子供たちを助けることができます

(1) 共同支援という形で子供たちを受け入れる仕組みをサポートすることにより、子供たちの基本的ニーズを満たすことができます。子供たちへのスポンサーシップで集まった資金は、子供たちを受け入れる仕組みを発展、実行に移す費用に直接あてられます。

(2) キブでは元少年兵に対して大工の職業訓練をスポンサーし、子供たちに社会復帰に

つながる職業技能（プロとしての技術）を習得させることにより、彼らが再度民兵に引き戻されたり、武器を持たざるを得ない状況に陥ることを防いだりすることができます。

（3）カナンガ市のストリート・チルドレンの支援では、あなたは子供たちの学校教育、家族復帰や里親を見つけることに手を貸し、生活の質の向上に貢献するのです。

### 学校の復旧

充実した教育への一番の障害は学校設備、インフラの欠如です。

私は紛争に見舞われたいくつかの村を訪ね、人々の生活がどのような影響を受けたかを視察しました。悲しいことに、これらの村では生活に必要な基幹設備がまったくと言っていいほど破壊されていました。学校もなければ医療施設もなく、水道、電気もなく、政府に見放された状態です。この状況を目の当たりにして、私は何をどうすればよいのか途方にくれ、無力感にさいなまれました。しかし学校に投資すればこの村人たちに希望と慰めをもたらしてくれると私は考えます。

子供たちの中には通学のために片道15kmを歩いている子供もいます。学校へ通うだけで往復30kmを毎日歩くのです。現実には、この長すぎる通学距離の途中で民兵に誘拐される危険を回避するために、学校から離れた場所に暮らしている保護者たちの中には、子供を学校へ通わせることを控えている人たちも大勢います。

ですから地元や近隣に学校施設を建設した方が合理的なのです。皆さんは、学校再建のための寄付により、現存の学校設備を改善することもできますし、コンゴの国を発展させるために、子供たちが技術や専門知識を学ぶことのできる近代的な学校建設プロジェクトを立ち上げることもできます。あなたの代わりにプロジェクトを実行に移してくれる地元の優秀なコンゴ人パートナーを見つけることが重要です。

カトリック教会や宣教修道会は、この方面の活動で実績があり有名です。皆さまの希望に沿って手を貸してくれるでしょう。

コンゴでは、ベストとされる教育機関や学校のほとんどは、カトリック教会によって創設されたミッション・スクールです。それらのミッション・スクールには優秀な教師がい

て、設備も整っています。教会は少なくとも子供たちの未来と国の発展のビジョン、展望をもって行動しています。皆さまがもしコンゴのために何か支援をなさりたいとお思いになれば、カトリックの宣教修道会のアドバイスを求めることをお勧めいたします。

前回コンゴを訪問した時、私は戦争で破壊された多くの学校や村々、そして孤児院を見てきました。人々が言うことはすべて同じでした。「子供たちのための学校、清潔で設備の整った良い環境の下で、母親が出産できる医療センターを建設する手助けを！」現状を見てきた私には、この要望を実行に移すことは大変な仕事だということがよくわかりませんが、決して不可能なことではありません。

### 希望をもって未来を迎える

私が祖国に戻って、子供センターや恵まれない子供たちを訪ねる時は、明るい未来に希望を持ち続けることができるように、子供たちにいつも一つの約束をしています。彼らにパラダイスのような単なる儂い希望を持たせようとしているではありません。子供たちが教育をきちんと受ければ、今の悲惨な状況から抜け出し、よりよい生活に転換させることが可能な日が必ず訪れ、希望を持ち続けることができると、私は約束しているのです。子供は我が国の未来です。彼らが未来の世界を担うのです。子供を助けることは世界を救うことです。

このスピーチの初めにわたしは申し上げました。なぜ危機と教育を話題に選んだのかと。私は避難民センターでボランティアをしていました。そこで働いていたのは私だけではありません。このセンターにいた友人の一人は修道女でした。彼女は、見捨てられた子供たち、特に女の子のための新しいセンター設立の決心をしました。私のアドバイスで、彼女は、このセンターを「希望ある子供たちの未来」センターと名付けました。彼女は設備を整えようと今も頑張っています。彼女のセンターの子供たちのために皆さまがほんの少しでも手を貸していただければ、とても感謝し、喜ばれることでしょう。

今日は私の話を聞いてくださってありがとうございました。そして、HINTのコンゴとベトナムの子供たちを救うための皆さま方のご努力に心から感謝いたします。（完）

**会費納入者・寄付者及び物品寄贈者名簿**  
(2014. 11. 1-2015. 4. 30・順不同・敬称略)

小幡 行弘・朋子	春日井 明
谷口 義武	三橋 重一・理江子
中山 善四郎	桃井 和馬
井上 静子	西嶋 久恵
カトリック松原教会	山田 篤
末永 恵子	碓井 徹
野坂 俊弥	黒川 京子
末永 秀雄・美津代	藤枝 伊都子
村井 厚子	禹 満
池田 ゆう子	田中 三子
安藤 秀樹	石原 達哉
古城 かほる	小林 貞
香取 嘉憲	佐賀 邦夫
岡田 直子	高澤 佳代乃
神山 巍	市川 幸一
国分 一也	嶋田 雅嗣
島田 恒	米村 富士子
安藤 和彦	四條 淳也
安達 裕美	神山 和美
加藤 順子	佐藤 健一
オリビエ シェガレ	東矢 高明
渡邊 美紀子	三上 里美
上村 武夫	匿名の皆さま

ご支援・ご協力ありがとうございました。

★左記期間内に会費納入やご寄付をされている方で、名簿に載っていない方は、お手数ですが事務局までご連絡下さい。

★HINT は皆さまの会費で運営されています。年会費 5,000 円で、ベトナムでは約 500 人分の給食を提供できます。コンゴで中高生約 2 人分の 1 年間の学費です。

★封筒ラベルの一番下にある日付が、貴方の最終振込み日です。

★郵便局の振込金受領書は、正式な領収書ですので、大切に保管してください。

★振替用紙は郵便局から事務局にコピーが届きますが、判読しづらい場合があります。楷書で分かりやすくご記入いただきますとたいへん助かります。

**<ご支援・ご協力のお願い>**

日頃よりご支援ご協力を誠にありがとうございます。

HINT が設立されてからの 21 年は、一人の小さな男の子が医師になるほどの歳月であることをあらためて想わされます。それは同時に、現地コーディネータの定年を何歳にするのか、将来的な現地後任を誰に委ねるのか、現地スタッフの福利厚生予算をいくらで計上するのかなどの難しい問題について、丁寧な対話を現場と交わしながら決定していかなくてはならない節目を迎えていることを意味いたします。

おかげさまで皆さまの温かいお支えにより、現在までのところは厳しい経済状況の中、会員が減少傾向にあっても会費収入が減るといってもなく、安定的に推移はしておりますが、子供たちの支援をしている現地コーディネータの緊急入院費や紛争時の避難費用の予算はあまりないのが実状です。掲載記事にもあるように現地のニーズは高まる一方で、現役員も仕事が忙しくなり、手が足りない現状もございます。これらの問題についても、総会でさまざまな角度から検討を行い、次号のニュースレターでご報告申し上げる予定です。皆さまにもぜひご参加いただき、一緒に考えて参りたいと存じます。新たな会員を積極的にお迎えしつつ、実務をお手伝いしていただける方を募り、ご寄付を増やし、現地の子供たちを支えていくために、どうかこれまで以上に、皆さまの温かいご支援とご協力をお願いいたします。(代表理事・進藤重光)

**会費振込のお願い**

皆さまの会費やご寄付が命綱です。お振り込みは同封の振込用紙を使用していただくか、下記口座へお振込みくださいますようお願いいたします(賛助会員:1口5,000円から・学生会員:1口2,000円から。ご寄付の場合はご随意)。

■郵便振替:00120-1-596327

口座名義:特定非営利活動法人 HINT

■ゆうちょ銀行:

記号 10010 番号 26990711

(他銀行から振り込む場合 店名:008

種目:普通 番号:26990711)

口座名義:特定非営利活動法人ヒューメ  
イン・インターナショナル・ネットワーク

■三井住友銀行:新宿支店

普通預金:3390001

口座名義:特定非営利活動法人ヒューメ  
イン・インターナショナル・ネットワーク

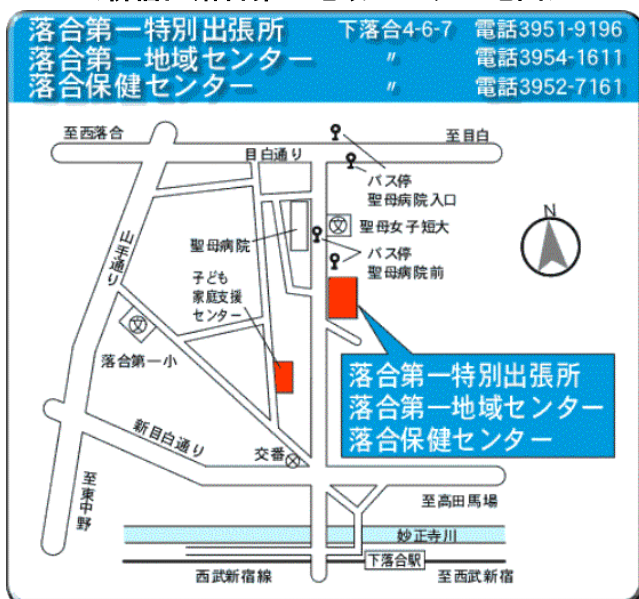
## 《定期総会のお知らせ》

日時：2015年6月27日(土)14:00~15:00  
場所：新宿落合第一地域センター第2集会室  
新宿区下落合4丁目6番7号  
電話：03-3954-1611

最寄駅：西武新宿線落合駅下車 徒歩4分  
2015年度の定期総会及び活動報告会を開催いたします。

議題：2014年度活動報告、2014年度決算、2015年度役員改選、2015年度活動計画、2015年度予算計画等。どなたでもご参加いただけます。HINTの活動について、ご関心のある方は是非おいで下さい。事前連絡はご不要です。

## ＜新宿区落合第一地域センター地図＞



## HINT 事務局からのお知らせ

### 《2015年度 HINT 役員を募集》

2015年度の上記定期総会で選任され、実務にかかわっていただける理事の方を募集いたします。定期的に理事会に出席し、HINTの運営や業務全般にご協力いただきます。詳細はメールで下記事務局へお問い合わせください。

## 《今後の活動予定》

### ● 講演会を開催します

テーマ：「世界に広がる感染症の現状」  
講師：狩野繁之

日時：2015年6月27日(土)15:00~17:00  
場所：新宿区落合第一地域センター第2集会室  
新宿区下落合4丁目6番7号  
(左地図参照) 電話：03-3954-1611

最寄駅：西武新宿線落合駅下車(聖母坂を上がり、聖母病院手前 徒歩4分) 会費：無料  
(1頁に詳細。どなたさまでもどうぞお気軽にお越しください。事前申し込みもご不要です)

### ● 赤羽教会チャリティーコンサートに参加します

日時：2015年8月29日(土)13:30~  
場所：カトリック赤羽教会 信徒会館2階  
北区赤羽2-1-12

最寄駅：JR赤羽駅東口徒歩3分

出演者：フルートアンサンブルフィオーレ、MARICO(ボーカルとピアノ)、CHARITO(ジャズボーカル)、ロードストーンジャズコレクティブ、「エバーグリーンクワイア」(コーラス)、丸山富士江(ソプラノ)

入場料：前売り1,500円、当日2,000円

アジア・アフリカの子供たちと東日本大震災復興支援のためのチャリティーコンサートです。クラシック、ジャズ、コーラスと盛り沢山、どなたでもお気軽に楽しめる催しです。HINTは支援先の雑貨を紹介し、活動を知っていただけるようPRします。

### ● グローバルフェスタ JAPAN2015 に出展します

日時：2015年10月3日(土)、4日(日)  
両日とも10:00~17:00

場所：日比谷公園

すっかり定着した国際協力のイベントです。世界各国の珍しい料理や、美しい民族衣装がたくさんのお祭りです。楽しむことはもちろん、知らない国々に触れることができ勉強にもなります。活動紹介を通じて多くの方々にHINTを知っていただければと願っています。

東京都認証 特定非営利活動法人 ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク (HINT) 事務局  
〒164-0002 東京都中野区上高田3-24-7 平兵衛内  
電話&FAX: 03-6279-1080 メール: hint\_info@epopee.co.jp  
ホームページ: <http://www.epopee.co.jp/hint>